

地域ぐるみで取り組みましょう

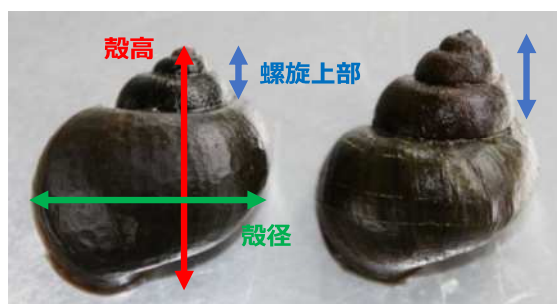
ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために

【秋冬編】

暖冬の影響で全国でのジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の発生が増えています。冬期の耕うんや薬剤の適切な散布など防除対策を組み合わせ、移植水稻での被害を防ぎましょう。地域ぐるみで取り組めば、さらに効果的です。



ジャンボタニシ
(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

- ・成貝の殻高は2～7cm程度
- ・本貝は、他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じです。また、長い触角とピンク色の卵塊が特徴です。



用水路（水口）の卵塊



食害を受けた水田

- ・深水となった部分で被害が生じやすく、食害された場合には、欠株となります。
- ・田植え後、約3週間までの柔らかく小さな苗を食害し、特に稚苗を移植した場合に被害が大きくなります。
- ・本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいることがあるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないでください。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗いましょう。

●防除対策の詳細は裏面を参照ください。

【秋冬編】 ジャンボタニシの防除対策（移植水稻）

秋冬期には、以下の防除対策を実施し、越冬個体数を減らすことが重要です。

○ 秋期の石灰窒素（発生量が多い場合に実施）

殺貝効果のある石灰窒素を散布。



いつ・どのように

- ・水温が17℃以上の時期に、3～4日間湛水を保った後、石灰窒素を散布。

留意事項

- ・魚毒性が高いため、田面水は水路に流さず自然落水させる。
- ・窒素成分を多く含むため、次作の施肥量を減らす調整が必要。

○ 冬期の耕うん（発生している場合に必ず実施）

物理的な破碎を行うとともに貝を厳寒期の寒風にさらす。



いつ・どのように

- ・土壌が乾燥して固い厳寒期（1～2月）に、トラクターの走行速度を遅く、PTO回転を速く（ロータリーの回転を速く）し、土壌を細かく砕くように耕うん。

留意事項

- ・未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、使用後のトラクターに付着した泥を洗浄。

○ 冬期の水路の泥上げ（発生量が多い場合に実施）

越冬場所をなくし越冬個体を寒風にさらすため、水路の泥上げを地域全体で行う。



いつ・どのように

- ・殺貝効果が高まる厳寒期（1～2月）に実施。

留意事項

- ・掘り上げた泥は、未発生ほ場に持ち込まない。

- 春夏期の防除対策として、
田植え前まで：取水口・排水口への網の設置、春期の石灰窒素
田植え時から：浅水管理、薬剤散布
などを組み合わせて実施しましょう。

